

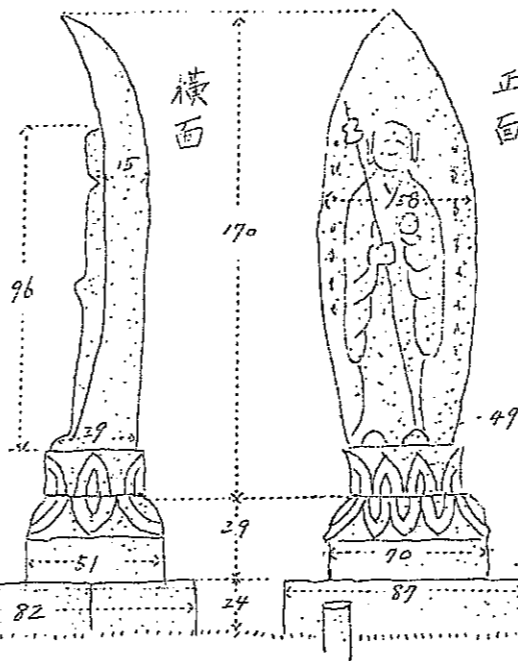
# きびのさと

N0.68  
月刊

第三輯 寺院篇 第十一号  
昭和三十九年二月一日 発行 (非売品)  
岡山県都窪郡吉備町東町二五 宇垣方呼電四三七  
吉備観老協会 会

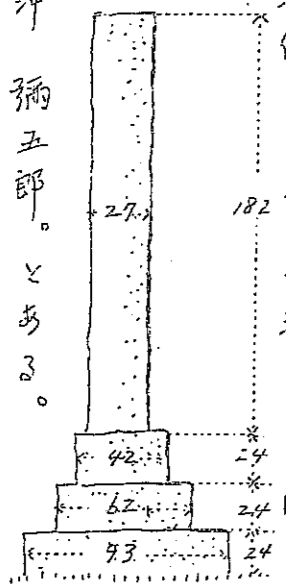
第64号誌

○金華山観音院  
 撫川の東町(上保田)にある。真言宗にして本尊は正観世音菩薩を安置して  
 いる。溝渠に架けてある石橋を渡つて山門に入る手前の右側に、高さ約  
 二段の台石の上に、37呎角、高さ184呎の道標を置き、これに  
 正面「従是去部室泉寺江一里」。東面「文化十四丁丁春三月吉日 拜起人  
 泉州 三雲芳兵衛 看住 常実誌」。と刻んである。その傍に  
 一「中飾 三十三ヶ所 廿七番 同八十八ヶ所 庚辰年四月十日吉日 拜起人  
 若狭 施主木村五平 明治三十六年四月十日吉日」。の小さな石標がある。  
 更に山門の左側には二段の台石の上に上向の蓮台を刻んだ蓮瓣形の主石を  
 置き、その表面に右手に揚杖を持ち、左手に宝珠を戴いて、立像の地蔵  
 尊を彫り込みにし、右に「有縁無縁平等普利建立 施主 松巖貞林」。左に  
 「元禄十七甲辰四月廿六日」の銘を彫り込んでいる。台石の上段は下向蓮  
 台の角石で、下段はただの角石を二枚前後に列べている。



山門は副門を有する宇五葺屋根に建て  
 立は不明なるも、天明六年十一月八日  
 現住覚雲和尚が再建した標札がある。  
 山門を潜ると正面が庫裏、客殿で、その  
 右に間口約12呎、奥行24呎、前面に向拝を  
 附けた單層入母屋造、宇五葺屋根の本堂  
 が、東面して建てられて、損傷は  
 甚だしい。  
 山門の左側に鐘樓堂があるが、大東亞戦  
 争に供出されて梵鐘は失われ、棟札  
 にも「明治三十二年三月吉日、現住池田  
 義英が再建して、この寺に、創建は此れ以  
 前であるが、確實な記録は寺にな。この  
 建物も損傷は甚だしく到底修復は困難の  
 ようである。

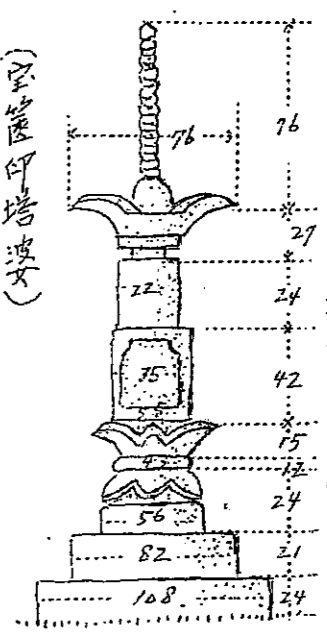
この鐘樓の右側に鐘穿として愛宕宮と金毘羅宮の二社がある。愛宕宮は一  
 間四面の流造、宇五葺屋根にして、社前に石灯籠一対がある。銘に  
 「愛宕宮 天明五年三月 穀旦 願主 総氏子中」とある。愛宕宮の祭神  
 はニ社ある。一は高さ15呎、木彫りの白装束をした白鬘の座像で厨子に納  
 められて、いま一は同じ寸法にして白馬に跨がる法衣姿の木彫の尊  
 像である。愛宕宮の右が金毘羅宮の一小祠である。一間半四面の拝殿を有  
 しているが、これは後在の増築で、参籠にあつたものであろう。  
 御本体は、いままでなく、讃岐の金毘羅大権現の分霊を勧請し、(御幣)  
 長さ34呎、幅18呎の厨子に安置してある。  
 拝殿には天保十一年三月吉日の年号のある長さ180呎、幅30呎、金毘  
 羅宮奉納五百句集の板額がかかっている。その他同寸法の句集が奉納  
 してあるが、文字は濃く、詳しくはわからない。思やにこの宮は天保年  
 間の鎮守であらう。鐘樓と同様に甚だしく損傷し、手入の余地はないほ  
 ど腐朽している。  
 本堂の前、左脇に正形、の供養碑がある。銘に  
 正面 奉養弘法大師一千百年遠忌倍増法衆  
 左面 我昔遇薩埵 観慈傳印明  
 右面 晝夜愍萬民 普賢住悲願  
 裏面 昭和九年三月廿一日建也 功德主 沖 彌五郎。とある。



この供養碑の傍に宝篋印塔婆がある。一古話人 撫川庭頼女謹中」

三段目に

正面 大内屋平兵衛 大内屋吉兵衛 萬屋文治郎  
右面 天保十二年辛丑五月吉日 現住 老道代  
雪岳正遠信士



銘に、正面

左面

右面

雪岳正遠信士 元和八年十一月廿一日  
涼山妙智信女 寛永九年七月八日  
金花淨老信士 萬治二丁亥年十月廿五日  
雪華妙現信女 寛文三癸卯年十二月廿二日  
壽山貞玉信女 元禄七年十月廿一日

先祖

雪岳正遠信士

寛政六甲寅秋九月廿日 数田正英建也

△ 雪岳正遠信士 元和八年十一月廿一日 数田氏の祖先、涼山は正遠の室で俗名は信。金花は難波甚兵衛といひ藤原正長にして数田氏二代の祖である。雪華は最勝院義善雪華妙現禪尼とあり三代正久の室で俗名雪。壽山は鶴林院礼譽身山貞玉禪尼とあり正久の後室で俗名を壽といふ。この墓石は当山を再興してから、百五十余年の後数田氏七代の仲止助(別名は正英)正業が十六歳の時、父正利の死の翌年に先祖の菩提を弔ふため建立したものである。△ 当山丁代の住職の墓標は地藏堂の西側に十基ばかりある。いづれも草墓である。ここに六部地藏尊があつて本堂との間を通つて墓地にゆたれる。地藏堂の左に二段の台石のある高さ卅種の碑がある。

銘に「享保五年二月十五日 南無阿彌陀佛 講中」とあり。

山門を入つたすぐ右側に絶縁してゐる古の墓。新しい墓が數十基整然と列んでゐる。中央に高さ三米ばかりの五輪塔がある。群墓中主なものを掲げると

一、西嶺宗印禪定門靈

一、本覚貞老信女 明治十五年八月廿一日

一、都字郡中野庄村林安次郎娘 庭瀬村沖

一、真性義辨信士 天保九年六月十五日

一、真光妙諦信女 鳥越平兵衛勝義墓

一、実應宗内信士 文化三丙寅十二月七日鳥越庄兵工

一、鶴壽妙長信女

一、開示妙悟信女 天政六癸未歲十月廿七日鳥越者助娘鏡

一、淨阿明慈信士 明治廿年七月七日鳥越啓次郎

一、覚道義心信士 長男孝治 行年僅廿一

一、觀應智鏡信士 明治廿七年七月廿三日鳥越啓次郎

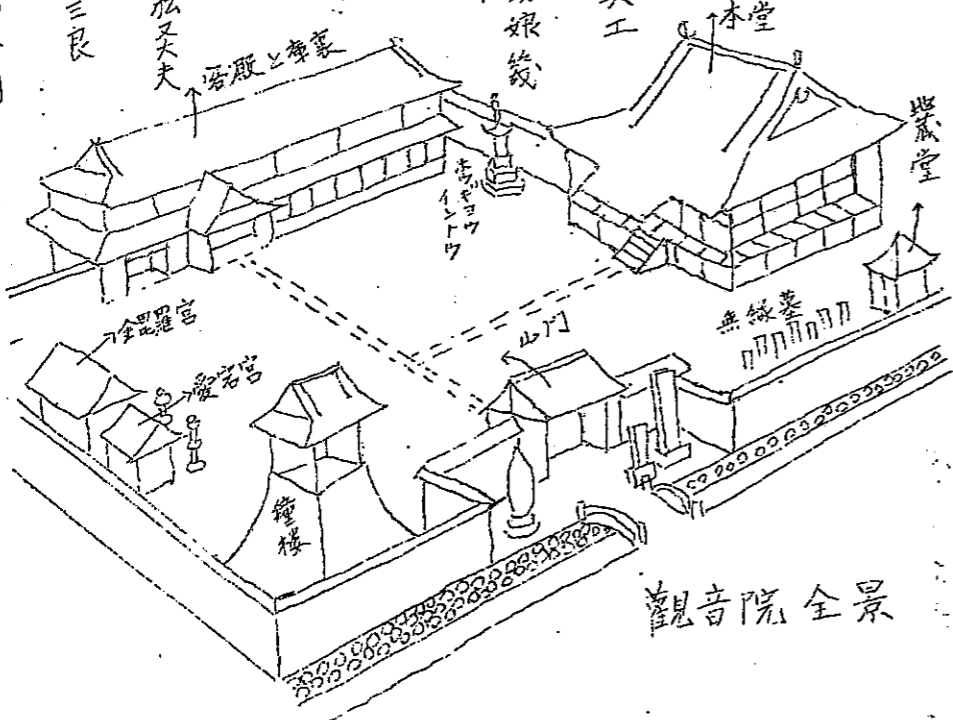
一、(明治四年の撫川領主戸川氏家臣帳に鳥越とあるはとの系統である)

一、即証本回禪定門靈位 享保第四年八月十日平松又次夫

一、一如真覚 靈 宝曆九年十月廿六日俗名平松次良三良

一、本覚妙照 靈 正徳(以下不明) 笠石前に同じ

一、(戸川氏歴代藩時代の家臣に高五右衛門三良右三門藤左エ門とありこの人の後裔ならんか。)



観音院全景



△ 当山の創建については古文書散逸して正確なことは判らないが、口碑によると、正暦年間(御津郡馬屋下村芳賀)の出身の高僧報恩大師が孝謙天皇の珠遇を受けて備前に四十八ヶ寺を建立し、ついで備中にも淡原、福山、日間、日差山などに山岳伽藍を興した。所謂佛教全盛時代が出現した。これまでの寺院は諸國の國分寺を始め、平地伽藍であつたが、天台、真言の新しい法灯が興り、山岳伽藍に建築様式が改まり、一定の方式を備えた諸坊の配置も各々異つた地形をうまく利用して独特の構成、方法を考へられるようになった。この日差山(第五輯道標、西向の頂参照)も三つした山岳伽藍の一つにして廿二坊と稱せられ、隆盛を極めたが後世になつて武家の執興とともに、淨地は汚され、漸次衰へし、ついに諸方に退轉し、或は廢絶してしまつた。觀音院はその一坊といわれ、始め中島あたりにしたといふ。しかしその年代は当時の山号などは知る由もない。天正十年の備中の役に堂塔は兵燹にあって燒失し、僅かに小堂のみにて、奥言秘教の傳統を継ぐ状態であつたらしい。偶にこの地に酒造を業とする富家数田甚兵衛正長と、うら由緒ある古寺の廢頽を憐れ、つたぐ歎き、資財を投じて一建立したのが現在の位置である。これまた再建の年代は不明であるが、正長は萬治二年(天保十一年)五月廿五日六十四歳で他界したので、建立は天正の燒失より七十年後の義成、明暦の頃と推定して誤りはない。よつて数田氏を中興の大檀越として檀信徒の間に崇仰するものである。

△ 当山には昔、金陽の儀式が行われていた。その時代に始まつたものか、文献のみるべきものはないが、明治廿七年の日清戦争が起つて一時中止されたのを、龍海和尚が再興して天正十三年(四月十三日)執行したものである。それともこの四年柱は使用に堪えられなかつたので、その古園材をもつて鐘樓堂の修葺復興にあつて、新しく中樞川の太田新一郎の寄附によつて四年柱がつくられた。それしこの金陽も昭和七年の黄丸回を最後に、ついに中止してしまつた。その理由としては、(一)当日は近在から多くの見物人が蜂々入り込み、誰か回を呈し行事は深夜に行われるので風紀上よくないこと。(二)元氣な裸躰が堂本(しんご)を争奪せんとする余勢をみて土埒は毀され、建物は損われ、その修理に困つたこと。(三)寺院前の路傍に張られた多くの露店が無慘に押しつぶされて向頭を壊したこと。(四)儀式に多額の費用を要すること。などが挙げられている。

執行当夜の模様を述べると、裸躰群は三々五々列をなして大橋の足守川岸で培養をとり、身体の不潔を清めて境内へ入り、四年柱を中心にして練り廻り、堂本の投擲されるのを待つ。しばらくして住職は本堂に安置してある堂本を嚴肅に奉戴して本堂正面の上部にある御福窓(現在遺つてゐる)を向つてうづまく深詳の頭上に投げるのである。群衆は忽ちこれを獲得しようとして、はなはなしい争奪戦が繰りひろげられる。数回の後、堂本は誰れかの手に抜き取りれるのである。これより先、町内では家運隆昌、招福除厄を願ふ家では門口に白、行灯をかかげて、この堂本を愛りやうと用意するのである。堂本を得たものを福男と呼び、受けた家を福主という。福主は堂本が納まると、これを当山へ知らせる。すると住職は伽藍に乗つて迎へ、提灯を先頭に福主の家へ付き、その真偽を確認する。是れがすむと、福主は福男を招いて御馳走のちをなせしむる福を祝ひ、また当山へ祝いのしるしに御札を納めて金陽の儀式は一先づ終るのである。東町の山口義夫氏には昭和三年第五回金陽と、同五年第七回金陽に納められた堂本が二本、保存されている。

昭和五年の堂本は長きに亘り、直径二寸の円筒形のもので、表面に  
「昭和五年正月十三日 奉修本尊供家運長久祈 岡山県 撫川町 觀音院  
奉轉読 大般若經 招福除厄」

と墨書白し、外部は和紙に篋重にも巻き、香にて焚きしめてある。投下された時には、直径十五六寸の大きなものであるが、手ごもまれ、紙ははがれ、しまふのである。この堂本を長き十五穂、幅四、五穂、厚さ四、五穂の枚箱に納められ、蓋に「堂本」と書いて佛壇に祭つてゐる。

△ 金陽で全国的に有名なのは西寺町の觀音院である。しかしその起源がどの寺院であるか判然しないが、ここに西寺觀音院の寺傳を述べ参考にした。昔、宣忠上人が唯正の法会を行い、参詣者に年玉を授けていたが、永正の頃(一五〇四―一五二〇)になつて忠阿上人が堂前の年玉(上堂本)を授けることにした。當時は信徒中の講頭、また長者のみに限り授けていたが、年毎に多くなり、限りある年玉を授けることが出来ず、ために抽籤にしていたが、数字という参詣者に対しては容易にこれを引くことを得ず、遂に群衆に投擲した。始めは羽織袴を着け半堂に額を敬虔な態度で授け待たうのであるが、争奪のため各自の行動を自由にせんかために裸体になり額を祭擲するようになったのである。

○ 歴代の住職、墓標並に過去帳に基つて年代別に列記した。もとより一時住職し他寺に轉じた僧侶もあるが不明である。中興以来盛衰を極め、無任の時代もあつた。殊に明治維新の佛教衰頽の際は、他寺の兼帯に置かれ、村の西方院、或は大田田の千手寺などの先住も当山を一時管理したことがある。實際の法系は五十余代と傳へられるが、せんさくする資料はない。

- 一 阿闍梨金剛坊花岳法印 文明年間 寛永十一年三月寂
- 二 阿闍梨增賀尊靈 享保九年庚辰極月念一日寂
- 三 阿闍梨宥貞法印 享保十二年正月廿九日 当寺中興之間祖 小豆島郡喜本村 松林寺 現主 法蓮
- 四 阿闍梨授善 靈 享保十二年正月廿九日 不明
- 五 阿闍梨授善 靈 延享四年十二月某日寂
- 六 權大僧都 賴智 天明元年六月十九日寂
- 七 法印快宥 快存上墓 天明元年九月某日寂
- 八 權大僧都法印快賢 天明四年甲辰九月廿二日寂
- 九 阿闍梨大我 讚州彌智寺法印也(台石に法蓮を刻み上野に地蔵尊の坐像を造りて) 死年不詳 山門再建 天明六年十一月
- 一〇 阿闍梨寛雲 当院一代假名 宥算房 寛政十年丙午十月十六日寂
- 一一 法印權大僧都弘藏 享和三年癸亥八月二十日寂
- 一二 辨雄阿闍梨 昔文化九年壬申八月二十二日示寂 聊酬於師 尊急謹建焉
- 一三 法鐸法印墓 文政十二年八月某日寂 (常實ともあり)
- 一四 生海印定大和尚 天保の頃の人
- 一五 阿闍梨丹道 弘化の頃の人 (老道ともあり)
- 一六 阿闍梨剛道 明治十六年四月寂 九 宥印阿闍梨 一〇 法蓮阿闍梨
- 一七 權大僧都法印法明 以上示寂年不詳
- 一八 阿闍梨 仁燈阿闍梨 (以上示寂年不詳)
- 一九 義英阿闍梨 明治三十二年三月鐘樓堂再建 池田義英 (示寂不詳)
- 二〇 大僧都淨眼舜猛位 大正十一年十二月廿二日寂 西鬼淨眼 八十一歳
- 二一 阿闍梨龍海 昭和廿年十二月廿七日寂 八十一才 姓は宗氏 香ヶ原 後歌郡瑞田村 現住 姓は宗氏
- 二二 美人 現住

△ 数田氏 (一当山再興の祖)

遠祖は身永年間平家卿将妹尾太郎兼康の臣 雄波十郎経遠の後裔にレレ  
 二説には平姓藤原氏にして平國は美作(今)数代の後裔 元龜元年の頃 雄波経三郎正  
 遠という人が 初め備前の大守宇喜多秀家に仕え 緑高百二十石を食ふ  
 ことたが 關ヶ原の役に宇喜多氏が滅亡して後裔浪人となり 鬼島の郡村に  
 匿棲した。その右慶長八年に戸川肥后守達安が庭瀬に所領を受けたので  
 田知を頼つてこの地へ移住し元和八年十一月廿一日卒した。これを数田氏  
 の始祖とする。その子甚兵衛正長は酒造業を営み富豪となつて 金華山觀音  
 院を中興した大檀那である。万治二年十二月廿五日卒。その子彌右衛門正  
 久は早島の高沼に移り隠居して如水と号した。高沼の如水寺はこの人の開  
 基である。元禄十二年正月十六日に六十五才で没した。如水寺に墓がある  
 その子を甚兵衛知三という。初め早島の始祖戸川中蔵助安元に仕へて緑  
 高五十石を賜わつた。この時雄波姓を大和田姓に改めた。豊洲村の新田を  
 開墾したのはこの人である。よつて君命によつて元禄三年に数田姓に改め  
 た。享保六年七月十五日大雨のため酒津川が決潰れて大洪水となり 早島  
 御取米倉千石余の損害を招いたといふ。當時如水寺に住居していた女、床  
 上三丈七寸の浸水に達した。翌七年三月十七日六十七才で没した。その子  
 仲右エ門正興は享保八年に塩地に居を移し、同十年二月廿九日再び高沼に  
 帰つた。

吉備町・庭瀬

文房書具 雜誌 書籍

## 目黒郁文堂

吉備町中田(庭瀬本町北へル)

ホムダモーター サービスステーション

## 平松モーターズ

吉備町中田(庭瀬本町北へル)

吉備町電二一九・有線八一〇

吉備町電三五三・有線一〇九